

復刻版 関西聯合 保育會雜誌 全2巻

— 復刻版 関西連合保育会雑誌 —

解説◎湯川嘉津美(上智大学教授) 資料協力◎大阪市立愛珠幼稚園・大阪市教育センター
体裁◎B5判・上製・布クロス装・総約1,000頁
定価◎本体 36,000円+税 ISBN978-4-8350-8311-7 刊行◎2019年7月

お薦め先 幼児教育史、保育学、実践・カリキュラム研究、保育運動、子ども学等の研究者、大学・公共図書館

●収録内容

I 関西連合保育会雑誌

『関西連合保育会雑誌』51-55号(1928年8月～38年8月、全5号収録)
『第四十九回 関西連合保育会誌』(1947年)
『第五十五回 関西連合保育大会協議会誌』(1951年)

II 関西連合保育会関連資料

『幼稚園に於ける郷土教育』大阪市保育会(1933年)
『第四十回 関西連合保育会提出遊戯』京都市保育会(同)
『関西連合保育大会提出遊戯』吉備保育会(同)
『関西連合保育会提出遊戯』神戸市保育会(同)
『第六回全国幼稚園関係者大会 提出問題意見発表』大阪市保育会(1935年)

●幼児教育資料アーカイブ

本シリーズは、日本の保育者たちが現場で子ども達に向き合うなかで直面し、克服していった数々の貴重な試み、その豊かな遺産を、可能な限り後世に残すものです。幼児教育、保育の分野において、貴重であるにもかかわらず、十分に保存・共有がなされたとはいえない文献、実践記録、日誌等の資料を提供する「幼児教育資料アーカイブ」、ぜひ幼児教育史研究の礎としてご活用下さい。 不二出版

◎続刊、2019年秋 予定!

好評の 関連図書!



日本におけるカリキュラム・マネジメントの淵源を大正期に探る！ 大正新教育 学級・学校経営重要文献選

編集・解説——橋本美保・遠座知恵
推薦——天笠茂・佐藤学

揃定価——揃本体価 180,000円+税

体 裁——A5判・上製・布クロス装・総約4,000頁 [各巻約400頁]

今日のカリキュラム・マネジメントを考え、当時の教育者、実践家たちの理想と実践を理解するために欠かせない、大正新教育期における学級経営、学校経営の重要な文献、論考を精選する、はじめての文献・論文選集。

澤正『学級経営』はもちろん、及川平治や西山哲治など明治末年から活躍する教育者から北澤種一、木下竹次、野村芳兵衛、斎藤謙平、赤井米吉などの幅広い論考、約60点を収録。

全二期・全3回配本・全10巻

新刊!

● 第I期 高等師範学校における学級・学校経営	
第1回配本 第1～3巻	●本体価54,000円+税 (2019年7月刊行) ISBN978-4-8350-8283-7
第2回配本 第4～6巻	●本体価54,000円+税 (2019年12月予定) ISBN978-4-8350-8287-5
● 第II期 公立・私立・その他の師範学校における学級・学校経営	
第3回配本 第7～10巻	●本体価72,000円+税 (2020年5月予定) ISBN978-4-8350-8291-2

戦後の教育改革で生まれた、「新しい教育」とはなにか?

戦後改革期 文部省実験学校 資料集成 全三期・全19巻



編集・解説——水原克敏(早稲田大学特任教授)
体 裁——A4・B5判/上製/総約10,562頁

終戦後の教育改革期における実験学校での研究は、その後の初等教育のあり方を見極めるための重要な試みだった。本資料集成では、1951年以前の文部省報告書を中心に、コア・カリキュラム、広域・複合・総合・教科など、さまざまなカリキュラム実験の実態を伝える調査、報告書類を網羅的に収録。戦前、戦後のカリキュラムの接続と断絶、その後の展開を知るための必備資料である。

● 第I期 ● 東京高師(東京教育大) 附小、東京学芸大師範学校附小(第1～3巻) それに千葉師範、長野師範、奈良女高師の附小における紀要、報告書類を網羅。

● 第II期 ● 経験主義から系統主義教育への転換過程がわかる、「初等教育実験学校研究資料」(1952-61) 及び1954、55年の「初等教育実験学校研究発表要綱」を収める。

● 第III期 ● 道徳教育、特別教育活動の設定、カリキュラムの能率化の過程がうかがえる「初等教育実験学校報告書」1-12(1961-65)を復刻。

● 第I期 全9巻	
第1回配本 第1～3巻	●本体75,000円+税 ISBN978-4-8350-7803-8
第2回配本 第4～6巻	●本体75,000円+税 ISBN978-4-8350-7807-6
第3回配本 第7～9巻	●本体75,000円+税 ISBN978-4-8350-7811-3
● 第II期 全6巻	
第1回配本 第1～3巻	●本体75,000円+税 ISBN978-4-8350-8042-0
第2回配本 第4～6巻	●本体75,000円+税 ISBN978-4-8350-8046-8
● 第III期 全3巻	
第1回配本 第1～3巻	●本体75,000円+税 ISBN978-4-8350-8202-8

関西聯合 保育會雜誌

幼児教育資料
アーカイブ1

— 復刻版 関西連合保育会雑誌 —

全2巻セット・B5判上製・総約1,000頁 解説 湯川嘉津美(上智大学教授)

日本の幼児教育を牽引した、
バイタリティあふれる
関西保育の躍動!

大阪、京都、神戸、岡山、名古屋……
各地の保育会からあげられた現場の多様な声によって、
戦前期日本における保育の実情が生き生きと伝わる。
幻の雑誌、復刻!

明治、大正、昭和戦前期と保育運動を牽引してきた、京阪神(関西)連合保育会発行の『京阪神連合保育会雑誌』『関西連合保育会雑誌』は、戦前・戦後の保育界の動向を詳しく伝える、幼児教育史研究者にとって必読の貴重な文献である——

湯川 嘉津美「復刻にあたって」より

不二出版

例年開催される保育大会記録からは、現場の保育者が直面した問題が浮き彫りに! 上は第52号表紙、右は倉橋惣三「幼稚園保育の新方向」(55号、1938年8月)。

幼稚園保育の新方向
倉橋 惣三 著
昭和十三年八月
大阪府立愛珠幼稚園
大阪府立愛珠幼稚園

振替 1120005
F A L 東京都文京区水道2-1010
00359811677004
00159811677004
600211677004
0854
4

不二出版

表示価格はすべて税別

現場保育者自らが、研究や実践の問題をもちより、議論を重ね、行政への建議・陳情を続けた 強力なつながりを誇った関西連合保育会、その昭和戦前・戦後における実態が明らかに！



復刻にあたって

湯川 嘉津美

『関西連合保育会雑誌』は、京阪神連合保育会の機関誌『京阪神連合保育会雑誌』の後継誌であり、一九二七(昭和二)年一月に会名が関西連合保育会に改称されたことに伴い、一九二八年八月発行の第五一号より『関西連合保育会雑誌』の名称が用いられた。

京阪神連合保育会は、一八九七(明治三〇)年一月に京都、大阪、神戸の三市の保育会によって結成された保育団体であり、一九〇二(明治三五)年の『京阪神連合保育会規約』には、毎年一回連合保育会を開いて「保育上ノ事ヲ研究」することや、本会の目的を達成するために、毎年六月と二月の二回『京阪神連合保育会雑誌』を発刊することなどが規定されていた。その後、一九二二(大正一〇)年一月に岡山市吉備保育会と名古屋保育会が加入して五市の連合保育会となり、一九二七(昭和二)年一月には会名を関西連合保育会と改称、「幼稚園教育ニ関スル各般ノ事項ヲ研究シ幼稚園教育ノ普及進展ヲ期スルヲ以テ目的トス」る団体となった。そして、本会の目的を達成するために、毎年一回『関西連合保育会雑誌』を発行するようになった。

『京阪神連合保育会雑誌』と『関西連合保育会雑誌』は、戦前・戦後の日本の保育界の動向を詳しく知ることができる貴重な文献であり、日本の幼児教育史研究者にとって必読の文献であるといえる。『京阪神連合保育会雑誌』は、一八九三年に臨川書店より復刻版が刊行され、一八九八(明治三一)年七月の第一号から一九二七(昭和二)年七月の第五〇号までを読むことができるが、『関西連合保育会雑誌』については、残存状況が悪く、全国の図書館にも所蔵されていないため、実際に手に取ることが難しい状況にあった。今回、大阪市立愛珠幼稚園および大阪市教育センターの協力により、

一九二八(昭和三)年八月の『関西連合保育会雑誌』第五一号から一九三八(昭和一三)年八月の第五五号までの復刻が実現し、『京阪神連合保育会雑誌』と『関西連合保育会雑誌』を通読することができるようになったことは、誠に喜ばしいことである。

今回の復刻では、一九四七(昭和二二)年一月に開催された関西連合保育会の記録である『第四十九回関西連合保育会誌』や一九五一(昭和二六)年一月開催の『第五十五回関西連合保育大会協議会誌』も収録されている。これにより限定的ではあるが、戦後の関西連合保育会の活動実態を知ることが可能になった。

また、一九三三(昭和八年)年一月に神戸市で開催された第四〇回関西連合保育会の関連資料として、大阪市保育会による研究発表資料「幼稚園に於ける郷土教育」や遊戯交換に提出された京都、吉備、神戸の保育会による「関西連合保育会提出遊戯」も収録されている。さらに、一九三五(昭和一〇)年三月の第四一回関西連合保育会は第六回全国幼稚園関係者大会と同で行われたが、その際の大阪市保育会の意見をまとめた「第六回全国幼稚園関係者大会提出問題意見発表」も併せて収録されている。

『関西連合保育会雑誌』とこれらの関連資料を一読すれば、関西連合保育会を中心とした戦前・戦後の日本の保育会の活動とその動向および日本の幼児教育の進展に果たした保育会の役割について知ることができる。

今日、幼小の連携や幼児教育の質の向上、保育者の養成と資格・待遇の改善などが大きな課題となっているが、『関西連合保育会雑誌』をみれば、それらは戦前より問題として認識され、改善に向けて協議が積み重ねられてきた課題であることがわかる。今回の『関西連合保育会雑誌』の復刊が、そうした今日の幼児教育をめぐる問題を歴史的に検証するための基礎資料として活用されることを期待したい。

(ゆかわかつみ・上智大学教授)

『関西連合保育会雑誌』とは？

京阪神連合保育会(＝関西連合保育会)が発行した雑誌。京阪神連合保育会(関西連合保育会)は、関西地域を中心とした保育会の連合組織として、行政への建議、研究会、意見交換など活発に行い、戦前期日本の幼児教育界をリード。倉橋惣三が牽引した、東京を中心とする東の『幼児の教育』に対して、この『関西連合保育会雑誌』は、中部・関西・中国地方の保育者たちの保育研究活動の記録であり、日本の幼児教育研究の空白を埋める、欠かすことのできない貴重雑誌である。

京阪神連合保育会(関西連合保育会)とは？

一八九七(明治三〇)年一月に京都、大阪、神戸の三市が結成した連合保育会。毎年保育会(大会)を開催することとし、年二回の雑誌刊行を目的とした。一九二二(大正一〇)年一月には、岡山市吉備保育会と名古屋保育会が加入、五市の保育会による連合保育会となる。一九二七(昭和二)年一月には、関西連合保育会と改称、雑誌の刊行は年に一度となる。一九四三(昭和一八)年の第四八回大会(必勝保育研究会代表者会)を最後に途絶えるが、一九四七(昭和二二)年一月に京都市において再建第一回大会として第四九回関西連合保育会を開催し、再発足を果たした。

収録内容

I 『関西連合保育会雑誌』

『関西連合保育会雑誌』五一号 一九二八年八月号

第三四回京阪神連合保育会提出遊戯(口絵)
保育雑感(宇五論議)

第三四回京阪神連合保育会(記事)

宗教ノ色彩ナキ幼稚園ニ於テ幼児ノ萌芽ヲ如何ニ培フヘキカ
幼児ノ好奇心ヲソル路傍ノ有害ナル売物ニ対シ適當ナル取締方ヲ其ノ筋ニ建議スルノ件

観察科ニ就テノ実況ヲ承リタシ

幼稚園ト小学校トノ連絡ニ就テ実施セラルル事項(略)
ゴッダードの木型板作業の時間的分析

園芸保育と田植遊に就て

(遊戯交換)とんぼノお菓子の汽車ノ白熊の時計ノケーブルカーノフクロー

粉屋遊に就て

交通整理遊に就て

ヒル氏積木遊に就て

(五市保育会彙報)京都市保育会ノ神戸市保育会ノ名古屋保育会ノ岡山市吉備保育会ノ大阪市保育会

京阪神連合保育会会名改称並ニ同会規約変更ニ関スル件

市町村立幼稚園保姆待遇改善ニ関スル建議ノ件

嵯峨野へ(会員便り)

『関西連合保育会雑誌』五二号 一九二九年九月号

健康第一主義の保育を奨める

外遊中の印象

第三五回関西連合保育会情况

(遊戯交換)ポートルースノ交通遊びノ時計と子供ノプールノ影踏みほか

六・二キログラム(一貫六百匁)の大積木

彩色帖について

保育に利用しての幻燈

幼児の生活と自然物利用

幼児のお弁当について

(五市保育会彙報)京都市保育会ノ神戸市保育会ノ名古屋保育会ノ吉備保育会ノ大阪市保育会

全国教育大会(保育部会)概況

大阪市保育会会則改正ニ関スル件

関西連合保育会規約



◎1951年、岡場で開かれた大会には、各地の保育関係者2,000名もが集まった(『第55回関西連合保育大会協議会誌』より)

表紙中央：瀧田要吉「サアオヒルネノジカンガキマシタ」(『コドモノヒカリ』5巻7号、1941年7月)部分
表紙左下：『関西連合保育会雑誌』第54号表紙部分
内容紹介右下：佐藤今朝治「メンタル・テスト」部分(『コドモノヒカリ』1巻7号、1937年6月)部分

幼児教育資料 アーカイブ1

日本の保育界を知るうえで、「幼児の教育」「保育」となるべき基礎的な雑誌、それが『京阪神連合保育会雑誌』(一九二八年より『関西連合保育会雑誌』に誌名変更)である。「京阪神」はすでに復刻版が刊行されて久しいが、『関西』は、国会図書館はじめ大学図書館等でも所蔵が皆無であり、研究環境が整っていないかった。

このたび、愛珠幼稚園(大阪市)の協力を得て、現存が確認された誌面、さらに関連する保育会の資料など入手できる限りのものを収録し、「幼児教育資料アーカイブ1」として公開。脚光を浴びる保育分野での基礎資料として、活用されることを願っている。(不二出版)

『京阪神連合保育会雑誌』『関西連合保育会雑誌』について

『京阪神連合保育会雑誌』は、三市連合保育会が結成された明治三〇年一月の翌年、すなわち同三二年七月に創刊されたものである。それ以来明治・大正期を通じ年二回ずつ発行され、昭和三年以降は『関西連合保育会雑誌』として、年一回ずつ発行された。同誌は関東のフレール会の「幼児の教育」(婦人と子ども)とやらんで、戦前における二大保育会雑誌としてわが国保育界に多大の貢献をしたのである。(啓蒙指導書格的に強い「幼児の教育」と異なり)、『京阪神連合保育会雑誌』は、三市連合保育会大会報告を中心としながら、さらに三市の保育会がそれぞれ有意義な論説(各保育会で実施した講演会の内容)や協議、研究課題や記事・報告を持ち寄り、編集されたもので、現場の保育問題や悩み、あるいは研究協議の過程などを詳細に掲載すると共に、所属幼稚園の各種実態調査や新しい試みなどを紹介しており、各時代の現場保育の実情を知るにはまことに好都合のものである。

京阪神地区の幼稚園は、まことに積極的でよいと思われることはすぐに取り上げ実践し、その成果を三市連合保育会で発表し、協議する機会に恵まれたのであり、同地区の幼稚園教育は、つねに全国の範として戦前の保育界を指導していったといっても決して過言ではなかった。戦前の幼稚園教育界の理論を指導した中村五六も、倉橋惣三も、つねにこの関西保育会の実践から教えられ、自己の理論の裏付けを関西保育会の実践によって得たのであった。(……)同誌の保育史的意義はまことに大きく、わが国幼稚園教育発達史上、欠くことのできない貴重な文献であるということができよう。

(水野浩志「京阪神連合保育会雑誌」(一)「幼児の教育」七九巻五号(一九八〇年五月)より)



◎上、京都市保育会が「遊戯交換」で提案した、「ケーブルカー」の前奏部分で体を動かす幼児たち(51号より)。
◎下、名古屋市第二保育園における、食後の歯磨きの様子(55号より)。京、大阪、神戸、名古屋、吉備等、それぞれの園は独自の楽曲と振り付けを交換、保育内容の研究を深めた。

